

ナイロン用酸性染料一浴固着剤

# パワー フィックス

## (Power Fix)

パワーフィックスは、ナイロン用酸性染料一浴固着剤で湿潤堅牢度を著しく向上させます。一浴固着剤でありますので、作業が簡素化され経済的で使いやすく、また従来のタンニン酸一吐酒石と同等もしくはそれ以上の堅牢度を得ることができます。

### (1) 性 状

外 観	褐色液体
成 分	タンニン系アンチモン化合物
イオン性	アニオン
溶解性	水に易溶
pH	3 ± 0.2

### (2) 特 徴

- (A) 一浴処理で、湿潤堅牢度を著しく向上させることができます。
- (B) パワーフィックスで処理した後、更に弊社製品のフィックスソルトLで固着処理することにより、特にスチームセットによる堅牢度低下を防ぐ事が出来ます。
- (C) 処理による色相のくすみは殆どありません。

### (3) 使 用 方 法

染色の濃度、希望される堅牢度、及び使用染料各々の堅牢度によって、使用量も違ってきますが一般に下記使用量をおすすめします。

染料濃度	パワーフィックス (o.w.f)	フィックスソルトL (o.w.f)
淡 色	2~4%	1~2%
中 色	3~5%	1.5~2.5%
濃 色	4~8%	2~4%

酢酸 (90%) : 1ml/l

処理浴を、浴比約1:20~30に仕立て、水にて希釈したパワーフィックスの適量を添加し徐々に昇温して、80℃で約20分間処理して下さい。この時、処理浴のpHを3~4に調整して下さい。酢酸が最も良好です。処理後は十分に水洗いして下さい。フィックスソルトLを併用される場合は、パワーフィックスで処理後、浴を変えずに同浴に水で希釈したフィックスソルトLの適量を添加して、更に80℃で20分間処理して下さい。

#### (4) 処理時の注意

- (A) 染色後は、十分に水洗いして下さい。特にカチオン又はノニオン系均染剤等を使用の場合は、スカムやターリングの発生の原因となりますので、充分の水洗いがが必要です。
- (B) 特に、フィックスソルトLを併用される場合には、パワーフィックスで処理するとき、温度(80℃)、時間(20分)を厳守して下さい。パワーフィックスの吸収が充分でないと、フィックスソルトLの固着効果が充分発揮できず、又スカム等の原因にもなります。
- (C) パワーフィックス及びフィックスソルトLはアニオン性の為、カチオン系ないしノニオン系助剤の混入には充分注意して下さい。

#### (5) 再染加工

まず、酒石酸2~5g/ℓ、85~90℃で約20分間処理し、続いてソーダ灰3~5g/ℓ、90~95℃で、約30分処理して下さい。この時浴比は出来るだけ大きい方が良好です。その後充分水洗いして再染工程に移って下さい。

#### (6) 包 装

20kg入り                      アトロン缶

注) ご使用に際しましては、予め充分試験された上で御使用下さい。

## 富士化学工業株式会社

本社工場/〒640-8392 和歌山市中之島1570番地 TEL.073-423-1247 FAX.073-431-3005  
東京出張所/〒110-0013 東京都台東区入谷1丁目6番6号 TEL.03-3876-1766 FAX.03-3876-1764

●特約代理店 \_\_\_\_\_

# フィックス ソルトL

## (タンニン酸固着剤)

従来酸性染料でナイロンを染色後、タンニン酸処理を行う場合タンニン酸処理後吐酒石固着をしていましたが、吐酒石は水に溶解しにくく90℃以上に熱をかけると一部不溶解物を生じたりして作業能率の低下をきたす場合があります。

このような欠点を改良し吐酒石に代る新しい固着剤がフィックスソルトLです。

### (1) 性 状

外 観	淡黄色澄明液体
主 成 分	酒石酸アンチモン塩
p H	6±2 (1%水溶液)
溶 解 性	水に易溶

### (2) 特 徴

- (A) 水と任意に混じる溶液ですから溶かす手間がはぶけます。
- (B) 処理後の染色物の変色やくすみが生じません。
- (C) 白粉の発生が生じません。

### (3) 使 用 方 法

#### (i) 浸 漬 法

下記例のように吐酒石と全く同様な使い方ですが、使用量は吐酒石の倍量使って下さい。

〈使用例〉粉末タンニン酸を使用の場合

タンニン酸 ① (粉末品)	3~4% (o.w.f)
酢 酸 (90%)	1ml/l
温 度	70~75℃
時 間	20分間
水 洗 い	
フィックスソルトL	3~4% (o.w.f)
温 度	70~75℃
時 間	20分間
水 洗 い	

〈使用例〉液体タンニン酸を使用の場合

タンニン酸エキス特製（液体） 6～8%（o.w.f）

酢 酸（90%） 1ml/l

温 度 70～75℃

時 間 20分間

水 洗 い

フィックスソルトL 3～4%（o.w.f）

温 度 70～75℃

時 間 20分間

水 洗 い

(ii) 一浴二段法

タンニン酸エキス特製（液体） 6～8%（o.w.f）

酢 酸（90%） 1ml/l

温 度 70～75℃

時 間 20分間

続いて

フィックスソルトL 3～4%（o.w.f）

温 度 70～75℃

時 間 20分間

水 洗 い

(4) タンニン酸処理後、染替える場合

酒石酸2～5g/l浴80～85℃で処理後ソーダー灰5g/lに調整した浴で80～85℃で30分間  
処理後水洗いした上染替えて下さい。

注) ご使用に際しましては、予め充分試験された上で御使用下さい。

## 富士化学工業株式会社

本社工場/〒640-8392 和歌山市中之島1570番地 TEL.073-423-1247 FAX.073-431-3005  
東京出張所/〒110-0013 東京都台東区入谷1丁目6番6号 TEL.03-3876-1766 FAX.03-3876-1764

●特約代理店

## ナイロン用染色堅牢度増進剤

# FK 707

FK707は従来市販のナイロン用フィックス剤とは異なり堅牢度の向上を計ったばかりでなく、フィックス処理の酸添加の必要がなくコストの節約となり使用方法は簡単です。

### (1) 性 状

外 観	濃赤褐色～黒褐色透明液体
主 成 分	芳香族スルホン酸塩縮合物
不 揮 発 分	37.0～41.0%
水 溶 状	淡褐色透明液状 (5%水溶液)
p H	1.3～2.3 (5%水溶液)

### (2) 特 徴

- (A) 処理浴に酸を添加する必要がない為経済的であり作業効率がよくなります。
- (B) 固着むらがない為連続処理やプリントにも短時間で卓越した効果を発揮します。
- (C) 純合成品です。従ってタンニン酸の場合のような処理後の変色がありませんし、白粉やターリングの発生、耐光堅牢度の低下も殆ど認められません。

### (3) 使 用 方 法

ナイロン繊維を酸性染料、含金属錯塩染料、直接染料で染色した場合染料自身の堅牢度、又、繊維の種類によって異なりますが一般に下記使用量をおすすめします。

	染料 (o.w.f)	FK 707 (o.w.f)
淡 色	0.5%以下	1～2%
中 色	0.5～1.5%	2～5%
濃 色	1.5%以上	4～8%

(A) ナイロン布の場合

ジッカー又はウインスで処理する場合は染色後水洗いしFK707の適量を添加後昇温し、80℃で20～30分間処理を行い水洗いして下さい。

染色後水洗いせずに処理を行う場合は温度80℃以下に下げってからFK707の適量を添加して下さい。その場合堅牢度は所定の堅牢度より若干悪く出ることもあります。

(B) ナイロン糸の場合

オーバーマイヤー又は回転バックで処理する場合は染色後水洗いし、FK707の適量を投入後昇温し80℃で20～30分間処理後、水洗い、脱水、乾燥を行って下さい。

染色後水洗いせずに処理を行う場合は温度80℃以下に下げってからFK707の適量を添加して下さい。その場合堅牢度は所定の堅牢度より若干悪く出ることもあります。

(4) FK707処理後、染替えする場合

ソーダー灰0.5～2%溶液中80～100℃で約30分間処理、処理後中和して下さい。

注) ご使用に際しましては、予め充分試験された上で御使用下さい。

## 富士化学工業株式会社

本社工場／〒640-8392 和歌山市中之島1570番地 TEL.073-423-1247 FAX.073-431-3005  
東京出張所／〒110-0013 東京都台東区入谷1丁目6番6号 TEL.03-3876-1766 FAX.03-3876-1764

●特約代理店 \_\_\_\_\_